



鵜住居の豊かな方言を参加者から教えてもらう、事典「うのペディア」プロジェクトのコーナーも

第4回鵜住居未来シアター「マイウのすまい」

2月17日【鵜住居地区生活応援センター】

震災前の映像や写真などで、まちの歴史や文化を後世につなぐ鵜住居未来シアター。4回目となる今回、1974年の鵜住居保育園運動会、75年鵜住居小学校舎落成記念運動会などの映像を約20人が鑑賞しました。昔懐かしい映像に会話が弾み、鵜住居小学校歌が流れると、一緒に口ずさむ人も。「100人のマイウのすまい」を目指したショートムービーでは「鵜住居の好きなところ」「今年はどんな1年に」「鵜住居にあったらいいもの」について出演者が答え、古里への思いを表現しました。



熱気あふれるポスターセッション

釜石高校SS理数探究発表会・研究成果報告会

2月21日【釜石市民ホールTETTO】

釜石高校1・2年生が日頃から疑問に感じたことについて研究してきた成果を市民に伝えるために、初めて公開の発表会・報告会を開催。釜石中の3年生45人をはじめ、保護者や地域の人々がさまざまな切り口の発表に耳を傾けました。口頭発表は、甲子柿由来のタンニン濃度や虎舞の起源（3年生）、「世界津波の日」高校生サミットの3テーマ。ポスターセッションでは、理科科ゼミ16件、普通科ゼミ69件（数学10、理科12、国語10、地歴公民12、英語10、体育8、芸術4、家庭3）の研究が発表され、熱心に質疑応答が行われました。



講師の岩手大学人文社会科学部教授・織田信男さんは「子どもとサポーターの関係は、つながりを太くするよりも、つながりを増やすことでサポーター自身の負担軽減にもつながる」とアドバイスしました

岩手大学「心のケア班」市民講座

2月22日【青葉ビル】

岩手大学三陸復興推進機構にある生活部門4つの班「ボランティア班」「心のケア班」「被災動物支援班」「地域コミュニティ再建支援班」の一つ、心のケア班は、震災後、被災した人やその支援者への長期的な心のサポートを行っています。今回の市民講座では、母親からの子どもに関する相談を例に、問題点や原因を探るアプローチだけでは、過度な原因追及による否定的な感情が芽生えやすくなるため、子どもの成功体験や長所から導き出していく方法で問題を解決して、子どもの可能性を大きくすることが必要であると学びました。



厄病神や福の神、死神役などになりきる出演者ら

劇団もしょこむ「厄も積もれば福となる」

2月24日【釜石市民ホールTETTO】

平成26年3月に旗揚げし、被災者のリアルな声を発信した『平行螺旋』で注目を浴びた劇団もしょこむ。市内公演第4弾も劇団オリジナルの脚本を用い、2回公演で約140人が観劇しました。物語は、青年・猫田と引っ越し先にいた「厄病神」との出会いと、心の触れ合いを描いたちょっぴり切ない物語。子どもたちから不幸が続く、人付き合いを避けてきた猫田に、厄病神は福を奪う本来の仕事忘れ励まし、ついに、交通事故に遭った猫田を結果的に助けてしまう。自分の幸せは自分で決めていいというメッセージに、観客は共感し拍手を送りました。



緊張の面持ちで録音作業をする大澤さん

釜石市少年消防クラブ員による防災行政無線広報

3月1日～7日【市内各所】

春季全国火災予防運動の一環として、同クラブ員（市内の小学生10人）による防災行政無線広報の放送が行われました。昨年からは始まった取り組みですが、火災予防のさらなる意識づけを狙い、今回初めて、釜中きずな防災クラブ員（釜石中）が考えた広報文を放送。録音作業は2月中に行われ、大澤莉々さん（甲子小6年）は「間を空けてゆっくり読むのが難しかった。たばこのポイ捨てなどをしないように気を付けてほしい」と話しました。

第18回釜石市有形文化財公開事業「指定文化財展Ⅲ」特別講演会

2月2日【チームスマイル・釜石PIT】

釜石市有形文化財公開事業は9年ぶりに、東日本大震災後初めての開催となりました。特別講演会では、昨年9月に文化庁の地域文化功労者表彰を受賞した釜石市文化財保護審議会会長 板澤利幸さんが「我が郷土の文化財」と題し、市内にある国指定の文化財から伝統芸能、埋蔵文化財までを幅広く紹介。釜石市民ホールで開催された「指定文化財展Ⅲ」（2月1日～3日）にも多くの人々が来場し、講演で紹介された内容を確認しながら思い思いに話す姿が見られました。



「製鉄関連の史跡などが多いのは、釜石市の特徴」と話す板澤さん



親子と一緒に坂を上がる姿に沿道から声援が送られました

第6回新春韋駄天競走

2月3日【消防団第1分団第3部屯所（只越集会所）前～仙寿院】

高台に逃げて津波から命を守る避難行動を啓発する韋駄天競走に、市内外から154人が参加しました。消防屯所からスタートし、標高約30メートルの仙寿院へ向けて、286メートルの急坂を駆け抜け、各部門で1位となった人は福男・福女に認定されます。この競走のアイデアになった兵庫県西宮神社開門神事講社の平尾亮講長が今年も駆けつけ、このコースを松葉づえで走り切り、誰もが逃げることを体現しました。表彰式終了後には、海に向かって東日本大震災の犠牲者に黙とうがさげられました。

第5期第2回釜石まるまる会議

2月9日【チームスマイル・釜石PIT】

釜石を舞台にさまざまな活動やイベントが生まれてきた釜石まるまる会議。「やってみたいを考える」をテーマに、中学生から大人まで約40人が参加し、やりたいこと、楽しいことのアイディアを出し合いました。「インスタ映え写真を撮影し投稿しまくる」「釜石のでっかい模型をつくる」「公園の遊具のペンキ塗り」などのアイデアに、「共感した」「興味を持った」人たちがそれぞれグループを結成。活動の実現に向けて、世代や立場を越えて交流を楽しみました。



「やりたいこと」の発表の前に、みんなで釜石について語り合いました

第9回全国虎舞フェスティバル

2月10日【釜石市民ホールTETTO】

全国の虎舞団体が参加する全国虎舞フェスティバルは「虎舞のルーツをたどる」と題し、延べ約2,000人の観客を集め開催されました。釜石高校の3年生3人が、虎舞の起源を探った研究成果を発表。観客は演舞に先立って行われた虎舞の歴史に聞き入り、全国が多様な虎舞を楽しみました。出演した全10団体のうち、市内からはかまいしこども園、只越虎舞など6団体、市外からは大槌町の向川原虎舞、青森県の日ヶ久保虎舞など4団体が勇壮な舞を披露し、観客を魅了しました。



愛媛県松山市の古三津虎舞



青森県八戸市の長者山麓八戸虎舞



平田虎舞